

第1回 圏域地域医療構想策定委員会

圏域	中播磨圏域
日時	平成27年10月7日(水)13:30~15:10
場所	姫路市医師会館 5階大ホール
司会	空地会長(姫路市医師会長)
出席者	欠席 藤本委員、志水委員、河原委員、岩見委員 上記以外は別紙委員名簿のとおり本人出席
議事次第内容	1(報告) 地域医療構想の概要と検討体制について 2(議決) 地域医療構想の策定に向けて 3(報告) 今後のスケジュールについて
結論	中播磨圏域では、2025年の必要病床数等を「推計①」による病床数(慢性期受療率はパターンBを採用)」を出発点として、今後の協議をすすめていくことで合意した。
主な意見・質疑応答	<p>Q1(委員)主に西播磨圏域との調整はどのように考えているのか。 A1(県)既に3次救急や小児・周産期等については、中・西播磨が連携して実施している。病床数及び医療機能をどうしていくか、現状と課題を分析しながら、中・西播磨の間で協議していきたい。</p> <p>Q2(委員)2025年の推計病床数と現在の病床数の差を、どのように考えるのか。 A2(県)推計ツール①の結果をみると、中播磨では268床多いので、数だけ見ると削減が必要ということにはなる。 A2(委員)厚生労働省は、「病床数の減少ありきではない」と言っている。検討委員会で議論しながら、地域の実情を踏まえて積み上げていくことになる。</p> <p>Q3(委員)どういう手段で病床数を調整していくのか、また調整できるのか。 A3(委員)調整会議を開催し、調整する。また、病院がまず自発的に変わるための仕組み(基金の活用)を考えていく。ただ、昨年度の病床機能報告では、急性期と回復期の区分けが難しく、多くの病院が急性期を選んでいるが、実際は回復期である可能性もある。この点は、今後データを見ていかないといけない。</p> <p>Q4(委員)在宅医療の体制(施設の過不足、自宅で医療を受けられる方の推計)をどうみていけばよいのか。 A4(県)在宅医療の評価をできるような資料を考えていく必要があると思っているが、なかなか難しい。先生方からも現状分析の方法等について、ご提案いただきたい。</p> <p>Q5(委員)地域医療構想と医療計画の関係は、どう考えるのか。 A5(県)地域医療構想は、県保健医療計画の一部となるので、整合性を図りながら、地域に特化して必要な医療施策を書き込んでいく。</p>
次回までの課題	在宅医療に関する現状分析・評価のための資料を準備していくことが必要。